

<全体分析>

試験時間 1科目選択で75分
もしくは2科目4問選択で100分

解答形式

空欄補充・選択・記述・論述・計算

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

特になし。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
[I]	空欄補充 選択 記述 計算	異化 免疫	生物 基礎 ・ 生物	(A) 問2 パルミチン酸とエタノールを呼吸基質とした場合の 化学反応式は、以下のようになる。 $C_{16}H_{32}O_2 + 23O_2 \rightarrow 16CO_2 + 16H_2O$ $C_2H_6O + 3O_2 \rightarrow 2CO_2 + 3H_2O$	標準
[II]	空欄補充 選択 記述	恒常性 個体群	生物 基礎 ・ 生物	(B) 問2 イヌワシは大型の鳥類であり、産卵数が少ないので、図2のCタイプに該当する。 問4 いずれの動物も外来種だが、アオマツムシ以外は人為的に導入されたものである。 問7(ii) 題意の面積は、死亡する年齢×その年齢で死亡する人数を積み上げたものの和である。	標準
[III]	空欄補充 選択 記述 論述	酵素 生殖	生物	(A) 問4 酵素の本体であるタンパク質と比べて補酵素は小さいので、透析によって分離できる。したがって、溶液Aには酵素の本体が、溶液Bには補酵素が入っている。	やや易

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

基本的知識を確実に学習することが大切である。空欄補充問題が多いので、生物学用語はしっかり確認しておこう。遺伝子やタンパク質に関する分野は出題されやすいので、しっかり対策を組んでおこう。また、計算問題もいろいろなタイプを練習しておこう。